

## ウェストハイランドミュージアムの概略

本館は、1922年に創設された独立ミュージアムです。フォート・ウィリアムで最も古い建物のひとつでもある旧銀行を利用しています。考古学から20世紀迄、ウェストハイランドの歴史を網羅しており、特にジャコバイト蜂起に関する国家的にも重大なコレクションを誇りとしています。

2つの階にわたり8つの部屋を見学することができます。番号のついた標識に従って御覧ください。

公的資金による賄いは、本館の運営費の20%にも満たしません。残りの運営費用は、皆様のような個人の方々の寛大なお気持ちに頼っています。本日のご来場をお楽しみいただけましたら、ご寄付をお願いいたします。

### 第1室- コマンド部隊 The Commandos

コマンド部隊は第二次世界大戦中、難題で危険な任務を遂行しました。訓練はフォート・ウィリアムから12マイル（約19.3キロ）離れたアックナカリー城で行われていました。訓練は非常に厳しく、実弾を使った突撃上陸なども行われました。詳しくは、コマンドの歴史に捧げた新しい展示室をご覧ください。

### 第2室 – 総督室 The Governor's Room

町の名前の由来となった砦は、1690年に建てられ、当時の新王、オレンジ公ウィリアムにちなんでつけられました。この砦の歴史は、ジャコバイトの蜂起と密接に関係しております。それについては詳しく2階でご覧になれます。このパネル張りは、砦を指揮していた総督の部屋から持ち込まれたものです。砦自体は19世紀に使われなくなり、鉄道建設のために取り壊されましたが、今でもその壁の一部を見ることができます。

この部屋に展示されているものの中で、特にクランラナルドの鉄床にどうかご注目覧ください。この14世紀鉄床は、クランラナルドの酋長が所有していたもので、おそらく顔の鎧を作るのに使われていたものと考えられています。また、地元の裁判所にあったバーチングテーブルは、1948年まで罪人が叩かれていたものです。壁には古い砦の地図もあります。

## 第2室 廊下- インバーロッキー, フォート・ウィリアムとグレンコーの虐殺 Inverlochy, Fort William and the Massacre of Glencoe

中世のインバーロッキー城の跡は今も残っています。信仰の自由を求める盟約派とチャールズ1世の支持者との間で起こった内戦では、1645年にこの近くで有名な戦いがありました。王党派のモントローズ侯爵の支持者が、より多勢だったアーガイル公爵の軍隊を潰敗せしめました。

1688年に、カトリック教徒のジェームズ7世に代わって、プロテスタント教徒のウィリアムとメアリーがスコットランドとイングランドの王位に就きました。ハイランド地方ではしかしまだジェームズ7世への支持が根強かったため、ウィリアムとメアリーはハイランド地方の首長たちに忠誠宣誓を求めました。グレンコーのマクドナルド一族の長であったマクランが宣誓するのが遅れた為、他の者への見せしめとして彼を罰することにしました。そこでフォート・ウィリアムの総督は、軍隊をグレンコーに派遣しました。

軍隊はハイランドでの伝統的なもてなし（客人に宿と食事をあてがえるべしという慣習が古くからありました）にのっとり、何ら疑いもしない「ホスト側」のもとで2週間にわたり平和に暮らし、おもてなしを受けました。しかし、1692年2月13日早朝、吹雪の中、軍隊はマクラン氏と彼の一族のうちの35名をも惨殺しました。グレンコーの大虐殺は、「おもてなし」と「信頼」が悪用された最悪な例として今日も悪名高く、忌まわしく歴史に刻まれております。

ここでは、グレンコーの大虐殺に関する書簡の複製を見ることができます。モントローズ侯爵ジェームズ・グラハムの兜にもご注目ください。このケースの隣には、フォート・ウィリアムの町の紋章にも使われている古代の武器、ロッホアーバー斧の例も何種かあります。

壁には、フォート・ウィリアムとフォート・オーガスタスを描いた絵画が飾ってあります。フォートオーガスタスは、1715年のジャコバイト蜂起を受け、その後にネス湖の南端に建設されたものです。グレート・グレンを遡る一連の砦は、インバネス近くのフォートジョージによって完成されました。

## 第3室- 博物学並びに地質学 Natural History and Geology

スコットランドの野生動物には、グレートブリテン島に生息する最大級の鳥類や哺乳類が含まれています。本館は主にビクトリア朝で制作された、見事な剥製を所有しております。特にイヌワシにご注目ください。

フォート・ウィリアムから北東の向かってインヴァネスに延びるグレート・グレンは、火山、そして後の氷山との組み合わせにより形成されました。大地をまたぐ自然な道ではありますが、19世紀初頭、

かの偉大なエンジニア、トマス・テルフォード氏は、スコットランド北部を巡る危険な水路を避け、4つの湖と運河の一部を結び、船の通り道を作りました。

一番奥の壁には、離島のセント・キルダ島の写真が展示されています。セント・キルダ島は、1930年に最後の島民が自ら望んで避難して以来、無人島となっています（第8室の、「セント・キルダ郵便船」もご覧ください）。その他の展示物としては、かつて大きな採石場があったバラチュリッシュ村の粘板岩やロソホアバーの奥地で今日も見られる野生のヤギの頭などがあります。

## 第4室- Archaeology 考古学

ウェスト・ハイランドには古くから人々は住んでおります。ラム島に最初に人が住んだのは約8,500年前と言われています。第4室には多くの考古学的発見物があります。この部屋には又、20世紀の山岳救助の発展に関する展示もあります。

展示品のうち、第3室に一番近いケースには、1588年の敗戦後、イギリス艦隊から逃れようとしてマル島のトバモリー湾で沈没したスペイン・アルマダのガレオン船の残骸から出土したコインなどが展示されています。上を見上げると、一枚の木で作られたボートの残骸がある。これはトラフと革靴とともに、クランノグと呼ばれる湖に浮かぶ人工島の跡地で発見されたもので、その写真は第3室に展示されています。

それよりも古い時代には、アカラクル近郊のティオラム城で発見された、動物の頭の形をした吊り輪が付いたピクト人の青銅器の縁があります。更にもっと古い時代のものとしては1871年に埋蔵金の夢を見た若い小作人が発見したアイルランドの青銅器時代後期のア金のブレスレットがあります。

ロバート・ルイス・スティーブソン著の小説『誘拐されて』に登場する有名な1792年のアッピン殺人の展示を通り過ぎながら、階段を昇って行ってください。

## 第5室- Costume 衣装

スコットランド人がタータンを着るようになったのは16世紀のことです。色は植物性の染料を使用していた為、タータンはクラン・氏族ではなく地区に固有のものとなっていました。戦場では、氏族はボンネット帽の植物バッジで識別され、クラン・タータン（地方各氏族固有のタータンチェック）が一般的に採用されるようになったのはかなり後のことでした。

キルトは18世紀に導入されましたが、それ以前に男性は、大きなチェック柄の肩掛けし、これは夜に毛布としても使われていました。この部屋には *feileadh mor*（グレートキルト）もしくは大肩掛け

をした人形を展示してあります。

1745年の反乱後、タータンは禁止されました。19世紀に入るとしかし、サー・ウォルター・スコットの小説の影響もあり、ハイランド地方のあらゆるものに対するロマンティックな関心が高まりました。1822年にはジョージ4世がスコットランドを訪問し、世紀末にはビクトリア女王がバルモラルにハイランドの館をものにしました。ここには、女王が召使のジョン・ブラウンに贈ったハイランドの礼装一式が展示されています。この二人の関係は、1997年に公開された映画『Queen Victoria 至上の恋』（原題‘Mrs. Brown’）の題材となりました。

**二階の廊下に沿って第6室へとお進みください。この部屋の展示物はジャコバイト蜂起の話を物語るのに役立ちます。**

## **The Jacobites      ジャコバイト**

**(第6室の家系図が、関係を分かりやすくするはずです)**

17世紀半ばの内戦を経て、1660年にチャールズII世はスコットランドとイングランドの王位を回復しました。チャールズII世はプロテスタント教の信仰を維持しましたが、彼が亡くなると、カトリック教徒の弟がジェームズ7世として王位につきました。イングランドの多くの人々はジェームズ7世の宗教に不満を抱き、1688年にプロテスタント教徒のオレンジ公ウィリアムと彼の妻でジェームズ7世の娘のメアリーに王位を継承させようという活動が盛んになりました。ジェームズ7世はフランスに逃げました。しかし、ジェームズにはまだ支持者がいました。Jamesのラテン語にちなんでジャコバイトと呼ばれた彼の支持者は、ジェームズ7世と後に彼の子孫が王位に復帰できるべく、手助けする事を決意しました。

ジェームズ7世、息子のジェームズ8世、そして孫のチャールズ・エドワード・スチュアートは、イングランドとの広範な対立の一環として、他のヨーロッパ大陸勢力、特にフランスから断続的に支援を受けていました。1689年に最初の蜂起が起こった後、1714年にメアリーの妹で1702年から君臨していたアンが亡くなると、2度目の蜂起が起こりました。アンには遺児がいなかった為、イングランド政府はプロテスタント教徒の王位継承を確実にする為に、ハノーバー朝のジョージ1世を新しい国王に招聘しました。これが失敗に終わった1715年の蜂起を引き起こしました。

「いとしのチャールズ王子」(Bonnie Prince Charlie) と呼ばれ愛されたチャールズ・エドワード・スチュアートは、1745年の最後の蜂起を起こしました。カリスマ性は備えながらも、彼は優れたリー

ダーではありませんでした。フランスの実行力ある支援を得られず、彼は、1745年の夏、ほぼ単独でウェスト・ハイランドに到着しました。当初は難色を示したハイランド地方の各首長たちも、最終的には彼の蜂起を支援することに同意し、8月19日に1200名の軍勢がグレンフィナンに集合しました。支援を増やしながら南下しました。

彼らは当初、エディンバラを占領しロンドンに向かう、という大成功を収めました。しかし脱走、資金不足、イングランドからの支援の欠如、最終的には将校の間での論争等により、彼らは弱体化していきました。ダービーで彼らは引き返し、スコットランドに退却しました。1746年4月16日、インバネス近郊のカロデンでの最終戦でひどい大敗を喫したのです。政府軍の司令官であったカンバーランド公爵は、勝利においても慈悲をみせず、「屠殺者」という渾名を得た程でありました。チャールズ王子は9月にフランスに脱出できる迄、ハイランド地方で逃亡生活を送っていました。第5室の外の踊り場には、ジャコバイトの大義を支持した一族を称えるグレンフィナンの記念碑の絵が飾られています。王子への支持が決定打となった、キャメロン一族の長の没収されたロキエルの領地の地図もあります。カローデンの後、彼追放の身となり、領地は没収されました。

廊下沿いには、フローラ・マクドナルドと「ベティ・バーク」の肖像画が飾られています。フローラは、逃亡中の王子をメイドの「ベティ・バーク」に変装させて逃亡を助けました。フローラはその後暫くロンドン塔に投獄されましたが、彼女の功績は後世迄語られる偉業として著名なものとなりました。

### 第6室 – The Jacobites      ジャコバイト

この部屋には、ボニー・プリンス・チャーリーゆかりの品々が数多く展示されています。最も有名なのは、王子の「秘密の肖像画」です。これは、板に描かれた歪んだ像が、鉄製の円筒に映ることで正しく姿を現す、アナモルフィック絵画です。これは1745年の蜂起の後、王子の支持者が変わらぬ忠誠心を示し続けるために使用したものです。

他にも、1745年9月にエディンバラで行われたチャールズ・エドワード王子の舞踏会で使用された扇子や、ジェームズ8世とクレメンティーナ・ソビエスカの結婚とチャールズ・エドワード・ステュアートの誕生を記念したメダル、ジャコバイトのシンボルが刻まれたワイングラスなどが展示されています。グラスに描かれたバラはジェームズ8世を、2本のつぼみは息子のチャールズ・エドワードとヘンリー・ベネディクトを象徴しています。ヘンリーは枢機卿となり、兄の死後、王位継承権を放棄しました。

秘蔵の肖像画と同じケースに、王子のデスマスクがあります。1745年の蜂起の後、彼は益々憂鬱になり、酒を飲むようになりました。52歳の時の結婚は不幸なもので、子供にも恵まれませんでした。

非嫡出子の娘、シャーロットはいました。1788年1月31日にイタリアで死去し、ローマのサンピエトロ寺院に彫刻家カノーヴァによる記念碑が建てられています。

**第6室の先には企画展のスペースがあります。次にお進みください：**

## 第7室 – ハイランドの日常生活 Highland Life

この部屋には、ハイランド地方の一般の人々の日常生活に関連したものが沢山あります。18世紀迄、クラン・氏族は相互に依存したコミュニティであり、酋長が広範な「ファミリー」を支え、その代わり戦時に男性メンバーが酋長を支える、というものでした。1745年の反乱以降、しかし、この氏族制度は崩壊しました。南部の酋長は地主のようになり、現金収入を最大化しようとするようになりました。人々は最良の土地から追い出され、その土地は新しい羊牧場に譲渡されました。貧弱な小作地に移された者もいましたが、多くの者は追い出され、多数はアメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランドへと移住していきました。19世紀には多くの溪谷は過疎化しました。ゲール語で"Clarsach" (クラールザッハ) と呼ばれるハープとバグパイプは、伝統的な楽器です。もうひとつ伝統的なものとして、クウェイクという2ハンドルのコップがあります。ポットスチルはウィスキーを違法に蒸留する為に使われました。ハイランドの人物や職業を現す人形もご覧ください。

**中央の階段を下り、右に曲がってください。**

## 第8室 – Military, transport and engineering 軍事、輸送、エンジニアリング

ジャコバイト蜂起の後、ハイランドの人々はさらに遠くへと就職先を求めました。多くの者は陸軍に入隊し、ハイランド連隊はそれ以来、優れた活躍をみせてきました。道路や後には鉄道の建設等の新しい職業に就く者もいました。20世紀に多くの人々が新しいアルミニウム産業に従事しました。

ここで展示されています軍装品の中には、ナポレオン戦争の際に地元で編成された連隊のものも含まれています。横のケースには、1822年に完成したカレドニアン運河の建設に使用された測量用水準器が入っています。銀製のスコップは、ウェスト・ハイランド鉄道とフォート・オーガスタス鉄道の工事開始のセレモニーで使用されたものです。

「セント・キルダの郵便船」は実に驚くべき発明でした。この離島は、国内の他の地域との定期的な通信手段がありませんでした。そこで発明の才に富んだ地元民は、工夫を凝らし、浮きにつけた手紙を箱に封じ込め、潮の満ち引きに合わせて海に流しました。うまくルイスの海岸に流れ着くことを祈願した波任せの仕組みでしたが、実際、その多くの手紙が人の手に渡ったものでした。

本館のアルミスラブの重さは545キロです。アルミニウムの製造には大量の電力が必要です。原料のボーキサイトは主に熱帯地方の国々に分布していますが、ハイランド地方は安価な水力発電を行うのに理想的な環境です。1904年にキンロッホレーベンに工場が建設され、その20年後にフォート・ウィリアムにも工場が建設されたものでした。

これで本館展示の見学は終わりますが、お帰りの際、どうか忘れずにギフトショップにお立ち寄りください。ハイランド地方に関する書籍や上質なジャコバイト・グラス製品、その他様々なギフトを揃えてお待ちしております。

いかがでしたか？お楽しみいただけましたでしょうか？  
お帰りの際に、どうかこの手引きご返却くださいますようお願い致します。